



ADRC Highlights

Vol.24

Asian Disaster Reduction Center Biweekly News

May 16, 2001

➤ ADRC 客員研究員レポート

Hripsime Vardanyan



私は、コーカサス地方にあるアルメニアから ADRC に来ました。この地方にある国々は、数々の自然災害と人災に悩まされています。こうした様々な災害による被害の中で、この地域において最も大きな被害を与えているのが、大地震であると分析されています。この地方で歴史上最も大規模な被害を与えたのが、1988年12月7日にアルメニアを襲ったスピタク地震でした。この地震による死者は

25,000人、負傷者が20,000人、そして515,000人が住むところを失いました。

今後新たに地震が発生した場合、それに伴って地すべり、火災、洪水、その他人災などによる二次災害が心配されると同時に、この地方の国々における近年の都市化の進展や人口増加によって、地震による被害がこれまで以上に拡大することが予想されます。スピタク地震をはじめとするさまざまな地震からの教訓や、地震活動の活発化を考慮すると、地震対策は住民の命を守るために決定的に重要な課題であるといえます。

私は、アルメニア政府の国立地震被害軽減研究所で勤務しています。研究所の主たる目的はアルメニアにおける地震による被害発生を軽減することにあります。こうした背景から私は ADRC の客員研究員として勤務することが非常に有益であると考えました。ADRC の客員研究員に選ばれたことを非常に嬉しく思います。

3ヶ月という非常に短い期間だったにも関わらず、私は様々な研究機関や政府組織を訪問することができました。また、2回にわたってアルメニアの防災体制や災害状況などについてのプレゼンテーションをすることもできました。これらは私にとって本当に貴重な経験でした。

さらに、私は3月24日にマグニチュード6.4の地震が発生した広島県、愛媛県の被災地域を視察する機会もあり、様々な被害の状況を実際に目にすることができました。こうした ADRC での様々な活動を通じて、私は多様な防災システム、地震対策、初期警報、住民啓発、GISシステム等について深く学ぶことができました。国に戻ってこれらの経験を我々の国でも生かしていきたいと思っています。

ADRC の客員研究員プログラムは、メンバー国に災害経験のための世界各地における経験を学ぶための非常に貴重な機会を与えてくれるものです。最後になりましたが、滞在中いつも必要なときに手を差し伸べてくれた ADRC スタッフのみなさまの温かいご支援に感謝したいと思います。

➤ ADRC インド西部地震視察報告

アジア防災センターでは、インド西部大地震調査のため、4月15日～26日にかけて、グジャラート州での被災地視察（ADRC のホームページで写真を紹介しています）や、インド中央政府、グジャラート州政府、現地 NGO 等の訪問を行いま

した。以下に概要を報告いたします。

まず視察では、被災中心部といわれる Kachchh 郡 (Bhuji, Bachau, Anjar) へと向かいました。全般的に主要道路以外ではがれきがそのまま残っており、都市の復旧にはまだまだ時間を要するという印象を受けました。Kachchh 郡が元々乾燥している地域であり、乾季でもあることから、市内全域が非常に埃っぽい状況であり、マスクやスカーフを使って通行している市民が多く見られました。

各都市の特徴として、Bachau では見渡す限りほぼ全ての建物が全壊し、さらにそのほとんどが倒壊状態でした。Anjar は3都市の中で最も震央距離が離れていることから、市域の半分は半壊ないし一部損壊の家屋が多く、震災以前のような商売や生活が営まれていました。地震発生直後から、最も被害が大きかったとされていた Bhuji についても、新市街のメインストリートでは半数近くの店舗が営業を再開していました。また、被害の大きな旧市街でもメインストリートでも、旧市街は電気等ライフラインの途絶が続いているため、日中のみ商店の営業が再開されていました。しかし、メインストリートから一步脇道へ入ると、未だ全く手をつけられていない状況が多く見られました。



次に、政府の活動ですが、一義的には州政府が対応し、他国やインド国内の他州との調整等で中央政府が州政府を支援する体制をとっています。グジャラート州政府では、このたび州知事を長にした新たに州災害対応組織を設置し、村の移転を含めた復興パッケージを立ち上げました。これら再建築には、外国政府や国際機関も支援しており、発災直後の緊急支援を含め、中央政府が橋渡し役を担っています。

また政府では NGO の参画を積極的に呼びかけており、官民パートナーシップによる被災地再建計画を通して、NGO の提案に基づき政府と NGO との経費折半で村の再興を手がけるといったユニークな内容が見受けられました。NGO は普段の開発プログラムや過去の度重なる災害支援活動を通じて、コミュニティベースによる自立支援を促していることから、村民の NGO に寄せる期待もかなりのものがあるようです。

アジア防災センターでは、今後もカウンターパートであるインド政府農業省と連携を取りながら、広くアジア地域の問題としてインド地震からの再建を支援していきます。6月にはメンバー国による ADRC インド西部地震調査ミッションを予定しており、今後もハイライトでの報告を続けます。

➤ アナウンスメント

□ カウンターパートの異動

ADRC のインドにおけるカウンターパートである Anil Sinha 氏が下記の機関に異動になりました。Head, National Centre for Disaster Management & Member-Secretary, High Powered Committee, Indian Institute of Public Administration.

ご意見・ご要望等があれば
右記までご連絡ください。

編集・発行： Asian Disaster Reduction Center (アジア防災センター)

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-1 IHDビル3F

E-mail: editor@adrc.or.jp TEL: 078(230)0346 FAX: 078(230)0347

誌代・送料： 無料 / 毎月2回発行(予定)